

福岡県医発第1784号(地)

平成18年 1月 6日



各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 竹嶋 康



新型インフルエンザの初期診療対応協力医療機関について

寒冷の候 貴職益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、貴職には日頃より、今冬のインフルエンザ対策等につきまして、ご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。

先般、平成17年12月27日に開催いたしました第1回各医師会感染症健康危機管理対策担当理事者会において、「福岡県新型インフルエンザ対応指針」に沿って新型インフルエンザへの対策について検討協議いたしました結果、本会では①発生早期における感染拡大防止のための事前の準備として、各保健所と連携のうえ、あらかじめ決めておいた各医師会担当理事を通じて医療機関において下記のとおり初期診療が行える体制を確立する方向で、各保健所毎に最低1ヵ所“初期診療対応協力医療機関”を選定すること、②大流行時における休日夜間救急診療体制の円滑な運営を目的として、体制の強化、整備を推進することとなりました。

つきましては、貴職におかれましても本件の重要性を鑑み、連絡窓口担当理事ならびに新型インフルエンザの初期診療対応医療機関としてご協力いただける医療機関を1ヵ所、選定くださいますとともに、大流行時における休日夜間の診療体制づくりを各救急担当理事ともご相談のうえ、推進くださいますよう、併せてよろしくお願い申し上げます。

なお、

1. 複数の郡市医師会が同一の保健所管内にある場合は、お手数ですが、ご協議のうえ、初期診療対応として協力可能な医療機関を最低1ヵ所選定ください。
(複数でも構いません。)
2. 各医師会連絡窓口担当理事ならびに新型インフルエンザの初期診療対応協力医療機関については別紙①、また、大流行時における休日夜間の診療体制については、別紙②にて平成18年1月27日(金)迄にご回報ください。
3. 各医師会におけるインフルエンザ流行時期の休日急患センターの対応について(平成17年8月2日:平成17年度第1回各医師会救急医療担当理事者会参考資料)をご参考までにお送りいたします。

4. 初期診療対応協力医療機関がそろい次第、2月中に当該保健所担当者との打合せ会が行政主導で行われる予定です。詳細につきましては、連絡が入り次第再度ご連絡申し上げます。

記

△発生早期（フェーズ4、5）における診療体制

- ①海外で新型インフルエンザが発生し、国内にはまだ流入していない、ごく早期において、新型インフルエンザ発生地域からの入国者で、症状等から新型インフルエンザを自ら疑った患者は、直接、医療機関を受診せず、事前に最寄りの保健所に電話連絡してもらうよう、事前に周知する。
- ②電話連絡を受けた保健所は、新型インフルエンザの可能性が高いと判断した場合、あらかじめ決めておいた各医師会担当理事を通じて初期診療が可能な医療機関へ連絡し、外来受診時間等の調整を行ったうえで、患者に連絡し、受診時にはマスクを着用するよう指導し、受診先を紹介する。
- ③診察の結果、患者が診断基準を満たした場合には、感染症法に基づき、感染症指定医療機関での入院治療となるため、保健所は患者を感染症指定医療機関へ移送する。

（福岡県新型インフルエンザ対応指針 P.13 より一部抜粋）

医師会

△連絡窓口担当理事について

・担当理事者名

・住 所

・医療機関名

・電話番号

・FAX番号

・緊急連絡先（携帯電話番号等）

・E-mail

_____@_____

△新型インフルエンザの初期診療対応協力医療機関について

・保健福祉環境事務所（保健所）名

・協力医療機関名

・昼間連絡先

TEL: _____ (担当者名・職種)

・ 夜間連絡先

TEL: _____ (担当者名・職種)

△大流行時の休日夜間の診療体制について

(検討された点を具体的にお書きください。)

・

・

・

・

※平成18年1月27日(金)迄にご回報ください。

平成17年度第1回各医師会救急医療担当理事者会

△と き 平成17年 8月 2日 (火) 16:30

△ところ 福岡県医師会館6階研修室3

インフルエンザ流行時期の休日急患センターの対応について
(岡田理事より)インフルエンザ流行時期に休日急患センターにおいて特別な医療提供体制を取られている
か(例:医師を通常1名から2名体制にする等)各医師会の状況

(北九州市) 特別には対策をたてていない。小児救急のチームを16医療機関で編成しているが、公表しているのは5医療機関のみである。

(遠賀中間) 特別には対策をたてていない。

(京 都) 年末年始には医師を1名から2名にしている。状況に応じて対応する予定である。

(豊前築上) 休日急患センターは土日だけ。常時小児科医1名と他診療科医1名の計2名体制である。特にインフルエンザ流行時期に増やす予定はない。

(福 岡 市) 土日は2人体制。年末年始は3人体制。とても足りる状況ではない。可能であれば、予防接種週間のように手上げ方式で協力をお願いしたい。

(筑 紫) 小児救急体制は365日とっている。何かあれば福大筑紫病院と徳洲会病院が対応することになっている。

(糸 島) 特別には対策をたてていない。一昨年にインフルエンザが大流行したときには、事務方の処理が追いつかずに待たせてしまった。

(粕 屋) 2ヶ所の休日診療所がある。医師は1名ずつ配置されている。特には対策をたてていないが、いざというときには、国立病院機構福岡東医療センターが対応することになっている。

(宗 像) 内科医小児科医のあいいうえお順によるオンコール体制をとっている。

(直方鞍手) 内科1名小児科1名の計2名体制である。今後の状況により変わるかも知れないが、現在のところは特別には対策を

とっていない。

- (田 川) 土日は大学のドクターにお願いしている。急患センターは現在工事中であり、完成すれば状況は変わるかもしれないが、現在のところ従来通りである。
- (飯 塚) 特別な対応の検討はしていない。休日急患センターの小児科医の大学からの派遣制限が始まったので、医師会員の小児科医及び内科医で小児科標榜の先生方で現在は運営している。
- (久 留 米) 特に対応はしていない。今後の小児救急に対しては、準夜帯に聖マリア病院を拠点にしたセンター方式で久留米大学病院等の協力を得ながら実施していこうという話が煮詰まりつつあるところである。
- (大 牟 田) 内科小児科の当番医の先生に診ていただいている。突発的に何か起これば施設を増やすことになるが、大牟田市立総合病院に協力をお願いすることになるだろう。
- (八女筑後) 小児救急については、平成16年4月より月～金に準夜帯で実施している。月水金は公立八女総合病院、火木は筑後市立病院、土日は各診療所に頼んでいる。インフルエンザ流行時期の対応は特にとっていないが、これで対応できると思う。
- (甘木朝倉) 医師会病院が地域医療支援病院の認可を受けたので現在協議中である。年末年始とゴールデンウィークには日祭日の日勤に1名増員している。
- (小郡三井) 休日急患センターは、外科1名内科1名体制であるが、小児救急体制にはまったく機能していない。インフルエンザ流行時期の特別な対応はとっていないが、毎週日祭日は、4つの民間病院のうち2～3つの病院を開けてもらい対応している。
- (大川三瀧) インフルエンザ流行時期の特別な対応はとっていない。大川三瀧医師会内には現在6名の標榜医師がいるが、久留米の準夜帯に聖マリア病院を拠点にしたセンター方式で久留米大学病院等の協力を得ながら実施していこうという話に参加しているようである。
- (柳川山門) 休日急患センターはない。インフルエンザ流行時期の対応は検討していない。小児救急に関しては、久留米の聖マリア病院を拠点としたセンター方式に賛同しているようだ。

(浮 羽) 特になし。

(岡田委員) 新型インフルエンザはいつ起こるかという話である。サーズは追跡できたが、新型インフルエンザが流行したら、間に合わないだろう。何らかの医療提供体制は必要だと思う。何かの機会があったら、対応は難しいと思うが、各医師会に応じた対策を検討してほしい。予防策はタミフルだと思う。5年間に2500万人分を備蓄するという計画はあるが経費の関係であまり進んでいないのが現状である。まずはドクターが倒れないようにしてほしい。